

**KAGA ELECTRONICS
CO., LTD.**

**2021年3月期（第53期）
第2四半期決算説明会資料**

加賀電子株式会社

2020年11月26日

目次

- 2021年3月期第2四半期決算概要 P-2～

2021年3月期第2四半期サマリー
業績ハイライト/M&Aの影響/セグメント別概況
バランスシート/キャッシュフロー

- 経営トピックス P-27～

新型コロナウイルス感染拡大への対応
旭東電気のグループ会社化について
PMIの進捗状況
・・・富士通エレクトロニクス・加賀EMS十和田・エクセル
サステナビリティ（SDGs）の取り組み

- 参考情報 P-36～

**2021年3月期
第2四半期決算概要**

**加賀電子株式会社
常務取締役 川村 英治**

2021年3月期第2四半期 サマリー

2021年3月期 第2四半期実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は、コロナ禍の中、テレワーク拡大でPC販売が伸びるも、大口取引先との商権・商流の変更による影響大きく受けて減収。 ● 減収にともない販管費縮減に努めるも、営業利益・経常利益ともに減益。 ● 当期純利益は、企業買収に伴う「負ののれん益」計上により増益。 	
主なセグメントの 概況	電子部品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部品販売ビジネスは、本年4月からエクセルを新たに連結化するも、富士通エレクトロニクスにおいてCypress社代理店権の解消により売上を大きく落とし、減収。 ・ EMSビジネスは、医療向けは堅調も、車載向けや空調向けはコロナ拡大による海外工場の一部操業休止等の影響を受けて減収。
2021年3月期 業績予想	情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC販売ビジネスは、テレワーク・オンライン授業の拡大により増収。 ・ 住宅向け家電販売ビジネスは減収が続く。
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部製造業ではコロナ影響から徐々に回復の兆しあり、加えて、社内計画比で上振れ進捗した2Q実績を踏まえて、前回予想（8月6日公表）から、売上高・営業利益・経常利益を上方修正。当期純利益は先行きを慎重にみて据え置く。 ● 中間配当は、期初予想の通り、1株当たり30円を実施。 ● 期末配当は、現時点では期初予想の1株当たり30円を据え置く。 	



管理本部長の川村でございます。本日は、弊社の第2四半期決算説明会にご参加賜りまして、誠にありがとうございます。私から第2四半期の決算概要についてご説明申し上げます。

まず初めに、第2四半期のサマリーでございます。売上高はコロナ禍の中、テレワークの拡大でPCの販売が伸びるも、大口取引先との商権・商流の変更による影響を大きく受けて減収となりました。減収に伴い、販管費縮減に努めるも、営業利益・経常利益ともに減益でございました。当期純利益は、企業買収に伴う負ののれん益計上による増益となっております。

主なセグメントの概況でございますが、電子部品につきましては、本年4月からエクセルを新たに連結化するも、富士通エレクトロニクスにおいてCypress社代理店権の解消により、売上を大きく落とし、減収となっております。EMSビジネスにつきましては、医療向けは堅調でございましたが、車載向けや空調向けは、コロナ拡大による海外工場の一部操業休止等の影響を受けて減収となりました。情報機器につきましては、PC販売ビジネスは、テレワークやオンライン授業の拡大により増収となっております。一方、住宅向け家電販売ビジネスは減収が続いております。

2021年3月期、当期の業績予想でございますが、一部製造業ではコロナの影響から徐々に回復の兆しがあり、加えて、社内計画比で上振れ進捗した第2四半期の実績を踏まえて、前回の予想、8月6日に公表させていただいておりますが、こちらから売上高・営業利益・経常利益を上方修正しております。当期純利益は、先行きを慎重に見て据え置いております。

株主還元についてでございますが、中間配当は期初の予想どおり1株当たり30円を実施させていただきます。期末配当につきましては、現時点では期初予想の1株当たり30円を据え置いております。

2021年3月期第2四半期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比	2021/3期 業績予想		進捗率
売上高	230,630		188,859		▲18.1%	400,000		47.2%
売上総利益	23,771	10.3%	21,641	11.5%	▲9.0%	-	-	-
販売費及び一般管理費	18,531	8.0%	17,206	9.1%	▲7.1%	-	-	-
営業利益	5,239	2.3%	4,434	2.3%	▲15.4%	5,000	1.3%	88.7%
経常利益	5,546	2.4%	4,338	2.3%	▲21.8%	4,500	1.1%	96.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,502	1.5%	10,772	5.7%	207.3%	10,000	2.5%	107.7%
EPS	127.62	-	392.30	-	-	364.18	-	-
為替レート	米ドル	108.63	-	106.92	-	▲1.71	-	-



業績のハイライトに移ります。売上高につきましては、1,888億5,900万円となりまして、前年比18.1%の減少となっております。当初の対外発表させていただいております売上高は、通期で4,000億円でございますので、進捗率では47.2%となります。営業利益につきましては、44億3,400万円となりまして、15.4%の前年比減益となっております。対外的には50億円で発表させていただいておりますので、進捗率は88.7%となります。

経常利益でございますが、43億3,800万円となりまして、前年比21.8%の減益でございます。対外的には45億円で通期予想を発表させていただいておりますので、この45億円に対する進捗率は96.4%でございます。親会社株主に帰属する四半期純利益は107億7,200万円となりまして、約3倍の207.3%増となっております。通期の当初の見通しでは100億円を予定しておりましたので、こちらはすでに達成しております。EPSでございますが、392円30銭となっております。

2021年3月期第2四半期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績	2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	199,818	156,887		▲21.5%
	セグメント利益	4,238 2.1%	3,083 2.0%	▲27.3%	
情報機器	売上高	19,968	23,192		16.1%
	セグメント利益	618 3.1%	1,160 5.0%	87.8%	
ソフトウェア	売上高	1,332	1,274		▲4.3%
	セグメント利益	46 3.5%	86 6.8%	84.0%	
その他	売上高	9,510	7,505		▲21.1%
	セグメント利益	259 2.7%	36 0.5%	▲86.1%	
合計	売上高	230,630	188,859		▲18.1%
	セグメント利益	5,239 2.3%	4,434 2.3%	▲15.4%	

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

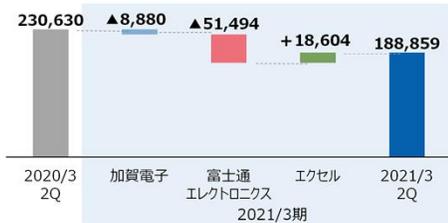
続きまして、第2四半期のセグメント別の業績をご説明させていただきます。電子部品につきましては、1,568億8,700万円となりまして、前年比21.5%減でございました。セグメント利益につきましては、30億8,300万円となりまして、前年比27.3%減となっております。情報機器につきましては、売上高231億9,200万円となりまして16.1%増。セグメント利益につきましては、11億6,000万円となりまして、87.8%増となっております。続いて、ソフトウェアでございまして、12億7,400万円の売上高でございまして、前年比4.3%減。セグメント利益は8,600万円となりまして、前年比84%増となっております。その他につきましては、75億500万円の売上高で、21.1%減。セグメント利益は3,600万円となりまして、前年比86.1%減という結果となっております。

2021年3月期第2四半期 M&Aの影響

(単位：百万円)

売上高

加賀電子はコロナ影響により減収、富士通エレクトロニクスは大口商権喪失により大幅減。エクセルは1Qより連結化



売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子、富士通エレクトロニクスともに減益も、販売ミックスが良化し粗利率は改善



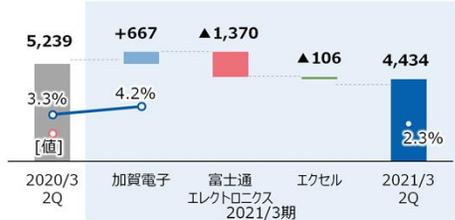
販管費 / 販管費率

富士通エレクトロニクスは経費削減に努めるも、減収影響大きく販管費率は大幅上昇



営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は減収でも増益確保、利益率も改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
なお、連結調整額は売上総利益は▲5百万円、営業利益は5百万円です。

4

続きまして、M&Aで会社が大きくなってきておりますが、この影響がどうであったかをご説明申し上げます。まず、売上高でございますが、前年比417億7,100万円の減収でございます。その内訳でございますが、加賀電子の従来からのグループ会社の合計値では88億8,000万円のマイナスでございます。富士通エレクトロニクスが514億9,400万円のマイナスでございます。新しくグループに入りましたエクセルの売上高は186億400万円でございます。

売上総利益につきましては、グループで21億3,000万円の減益でございます。内訳は加賀電子グループが4億9,400万円のマイナス、富士通エレクトロニクスが26億3,300万円のマイナス、エクセルが10億900万円の増加の要因となっております。また、粗利益率につきましては、加賀電子グループは14.3%と、前年の13.7%から増加しております。それから、富士通エレクトロニクスにつきましても、8.0%の実績となりまして、前年の6.7%から増益となっております。

続いて、販管費でございますが、13億2,500万円、全体では前年比減少となっておりますが、加賀電子グループは11億400万円のマイナス。それから、富士通エレクトロニクスが12億7,800万円のマイナス。新しくグループに入ったエクセルの分が10億5,800万円の増加となっております。最後、営業利益でございますが、グループ全体で8億500万円の減益となっております。加賀電子グループとしては6億6,700万円のプラス、富士通エレクトロニクスが13億7,000万円のマイナス、エクセルが1億600万円のマイナスという内訳となっております。

2021年3月期第2四半期 会社別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
加賀電子	売上高	119,415		110,535		▲7.4%
	売上総利益	16,347	13.7%	15,853	14.3%	▲3.0%
	営業利益	3,952	3.3%	4,619	4.2%	▲16.9%
富士通 エレクトロニクス	売上高	111,214		59,720		▲46.3%
	売上総利益	7,418	6.7%	4,784	8.0%	▲35.5%
	営業利益	1,286	1.2%	▲84	▲0.1%	-
エクセル	売上高	-	-	18,604		-
	売上総利益	-	-	1,009	5.4%	-
	営業利益	-	-	▲106	▲0.6%	-
合計	売上高	230,630		188,859		▲18.1%
	売上総利益	23,771		21,641	11.5%	▲9.0%
	営業利益	5,239		4,434	2.3%	▲15.4%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

続きまして、第2四半期の会社別の業績をご説明申し上げます。加賀電子グループが1,105億3,500万円の売上高でございまして、前年比7.4%減でございました。売上総利益は158億5,300万円となりまして、前年比3.0%減でございます。セグメント利益は46億1,900万円となりまして、こちらは16.9%増となっております。

富士通エレクトロニクスですが、売上高が597億2,000万円となりまして、こちらは大きく46.3%減となっております。売上総利益が47億8,400万円となりまして、35.5%減です。セグメント利益につきましては、8,400万円の損失となっております。

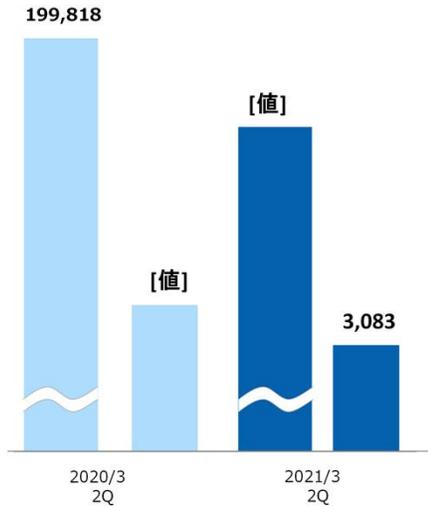
続きまして、エクセルでございまして、売上高が186億400万円でございます。また、売上総利益につきましては、10億900万円となりまして、セグメント利益は1億600万円の損失でございました。

2021年3月期第2四半期：電子部品事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ ▲42,931百万円 21.5%減
- セグメント利益 ▶ ▲1,155百万円 27.3%減

・部品販売ビジネスは、エクセルのグループ化による増収効果あるも、富士通エレクトロニクスでのCypress社代理店権解消などの影響により減収。

・EMSビジネスは、医療機器向けが堅調に推移するも、車載関連、空調向けは低調に推移。
 ・新型コロナウイルス感染拡大により、海外工場において一部操業休止や生産調整の影響あり。



セグメントの主なものをご説明申し上げます。まず、電子部品事業でございますが、売上高につきましては、先ほど申し上げたとおり429億3,100万円のマイナスでございました。21.5%減です。それから、セグメント利益は11億5,500万円のマイナスで、27.3%減となっております。この要因でございますが、部品販売ビジネスにつきましては、エクセルのグループ会社化による増収効果がございましたが、富士通エレクトロニクスでのCypress社代理店権解消などの影響で、大きく減収となっております。

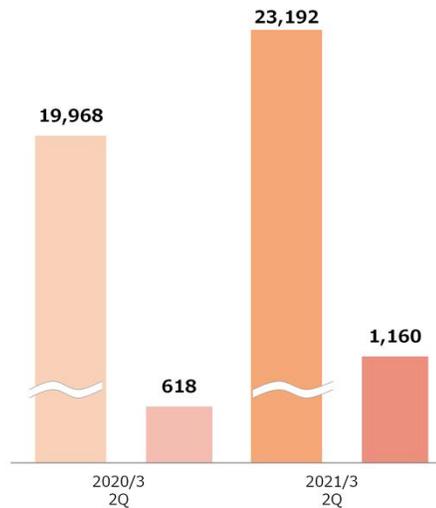
EMSビジネスにつきましては、医療機器向けが堅調に推移するも、車載関連、それから空調向けは低調に推移いたしました。また、新型コロナウイルス感染拡大により、海外工場において一部操業休止や生産調整の影響がございました。

2021年3月期第2四半期：情報機器事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ +3,223百万円 16.1%増
- セグメント利益 ▶ +542百万円 87.8%増

・パソコンおよびPC周辺機器販売は、コロナ禍の中、テレワーク・オンライン授業の需要増により家電量販店、学校や教育機関向けに好調。

・住宅向け家電販売ビジネスは低調続く。



続きまして、情報機器事業でございます。売上高は32億2,300万円増で、16.1%増でございました。セグメント利益は5億4,200万円の増加で、87.8%増でございました。この要因でございますが、パソコン及びPC周辺機器の販売はコロナ禍の中、テレワークですとか、オンライン授業の需要増により家電量販店、学校、それから、教育機関向けに好調に推移いたしました。一方、住宅向けの家電販売ビジネスは低調に続いております。

2021年3月期第2四半期 業績ハイライト (直近3カ月)

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q実績		2021/3期 1Q実績		2021/3期 2Q実績		前年同期比	直前期比
売上高	121,066		84,130		104,729		▲13.5%	24.5%
売上総利益	12,708	10.5%	9,997	11.9%	11,643	11.1%	▲8.4%	16.5%
販売費及び一般管理費	9,319	7.7%	8,341	9.9%	8,864	8.5%	▲4.9%	6.3%
営業利益	3,389	2.8%	1,656	2.0%	2,778	2.7%	▲18.0%	67.8%
経常利益	3,500	2.9%	1,533	1.8%	2,804	2.7%	▲19.9%	82.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,152	1.8%	8,643	10.3%	2,128	2.0%	▲1.1%	▲75.4%
EPS (1株当たり四半期純利益)	78.42	-	314.77	-	77.53	-	-	-

続きまして、第2四半期の四半期ごとの数字をご説明申し上げます。第2四半期の3カ月の実績は、売上高1,047億2,900万円で行いました。前年の同期と比較しますと、13.5%減で行いました。第1四半期の実績値が841億3,000万円で行いましたので、対前四半期比で申し上げますと、24.5%増となっております。

営業利益でございますが、27億7,800万円となりまして、前年比18%減、直前期比で67.8%増となっております。経常利益、28億400万円となりまして、前年比19.9%減、直前期比で82.9%増となっております。親会社株主に帰属する四半期純利益は21億2,800万円となりまして、前年同期比で1.1%の減少、直前期比では75.4%減となっております。こちらは、直前期の第1四半期の時点で、エクセルの負ののれんを計上したことが大きな要因となっております。

2021年3月期第2四半期 セグメント別業績（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 1Q実績		2021/3期 2Q実績		前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	105,230		68,196		88,690		▲15.7%	30.1%
	セグメント利益	2,617	2.5%	1,185	1.7%	1,897	2.1%	▲27.5%	60.0%
情報機器	売上高	9,842		12,537		10,654		8.2%	▲15.0%
	セグメント利益	429	4.4%	583	4.7%	577	5.4%	34.6%	▲0.9%
ソフトウェア	売上高	895		491		783		▲12.5%	59.2%
	セグメント利益	108	12.2%	▲44	▲9.1%	131	16.8%	20.5%	-
その他	売上高	5,097		2,904		4,600		▲9.8%	58.4%
	セグメント利益	186	3.7%	▲101	▲3.5%	137	3.0%	▲26.2%	-
合計	売上高	121,066		84,130		104,729		▲13.5%	24.5%
	セグメント利益	3,389	2.8%	1,656	2.0%	2,778	2.7%	▲18.0%	67.8%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

続きまして、セグメント別の四半期ごとの数字をご説明申し上げます。第2四半期3ヵ月間の、電子部品事業の売上高は886億9,000万円でございます。前年同期比で15.7%減、第1四半期の直前期に比較すると30.1%増でございました。セグメント利益につきましては、18億9,700万円となりまして、前年比27.5%減、直前期比で60%増となっております。

次に、情報機器につきましては、売上高106億5,400万円となりまして、前年同期比8.2%増、直前期比では15%減となっております。セグメント利益につきましては、5億7,700万円となりまして、前年比34.6%増、直前期比では0.9%減となっております。

ソフトウェアは売上高7億8,300万円となりまして、前年同期比12.5%減、直前期比で59.2%増。セグメント利益は1億3,100万円となりまして、前年同期比20.5%増となっております。

その他でございますが、売上高46億円、前年同期比で9.8%減、直前期比で58.4%増となっております。セグメント利益は1億3,700万円となりまして、前年同期比26.2%減でございました。直前期が赤字の1億100万円の損失でございましたので、こちらは黒字に転換しております。

2021年3月期第2四半期 M&Aの影響（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

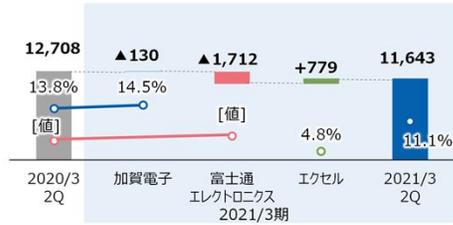
売上高

富士通エレクトロニクスは大口商権喪失により大幅減が続く。



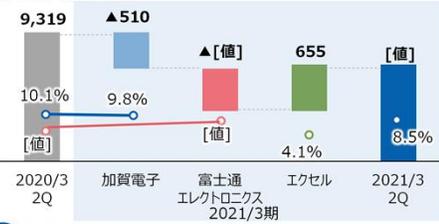
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子はミックス改善で粗利減は限定的



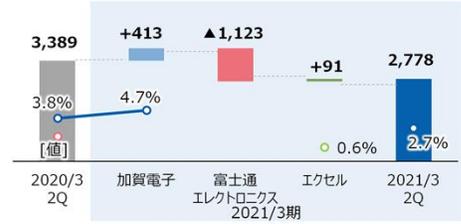
販管費 / 販管費率

富士通エレクトロニクスは経費削減に努めるも、減収影響大きく販管費率は高止まり



営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は減収でも増益確保、利益率も改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
なお、連結調整額は売上総利益は▲2百万円、営業利益は3百万円です。

2021年3月期第2四半期 会社別業績（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績	2021/3期 1Q実績	2021/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	61,744	52,493	58,041	▲6.0%	10.6%
	売上総利益	8,540 13.8%	7,442 14.2%	8,410 14.5%	▲1.5%	13.0%
	営業利益	2,335 3.8%	1,870 3.6%	2,749 4.7%	17.7%	47.0%
富士通 エレクトロニクス	売上高	59,322	29,172	30,548	▲48.5%	4.7%
	売上総利益	4,168 7.0%	2,328 8.0%	2,455 8.0%	▲41.1%	5.5%
	営業利益	1,057 1.8%	▲18 ▲0.1%	▲65 ▲0.2%	-	-
エクセル	売上高	-	2,464	16,139	-	554.9%
	売上総利益	-	230 9.3%	779 4.8%	-	238.6%
	営業利益	-	▲198 ▲8.0%	91 0.6%	-	-
合計	売上高	121,066	84,130	104,729	▲13.5%	24.5%
	売上総利益	12,708 10.5%	9,997 11.9%	11,643 11.1%	▲8.4%	16.5%
	営業利益	3,389 2.8%	1,656 2.0%	2,778 2.7%	▲18.0%	67.8%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

続きまして、会社別の業績をご説明申し上げます。従来からの加賀電子グループの第2四半期の売上高580億4,100万円でございます。前年同期比で6.0%減、直前期比では10.6%増となっております。売上総利益につきましては、84億1,000万円となりまして、前年同期比1.5%減、直前期比では13%増となっております。営業利益につきましては、27億4,900万円となりまして、こちらは前年比17.7%増と、増益となっております。直前期比では47%増となっております。

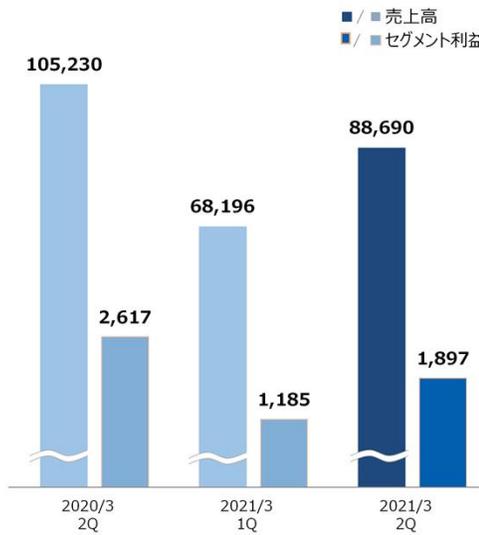
富士通エレクトロニクスにつきましては、売上高305億4,800万円となりまして、前年同期比48.5%減、直前期比では4.7%増となりました。売上総利益につきましては、24億5,500万円となりまして、前年同期比41.1%減、直前期比では5.5%増となっております。営業利益につきましては、6,500万円の損失でございます。こちらは前年が10億5,700万円の利益計上しておりましたので、売上総利益が大きくマイナスに落ち込んだことが要因で赤字となっております。

新しくグループに入りましたエクセルにつきましては、売上高が161億3,900万円となりました。売上総利益につきましては、7億7,900万円となりまして、営業利益につきましては、第2四半期9,100万円の黒字となっております。エクセルグループは、第2四半期から海外子会社が数字に入ってきておりますので、この要因もございまして、第2四半期から黒字に転換しております。

2021年3月期第2四半期：電子部品事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ ▲16,539百万円 15.7%減
- セグメント利益 ▶ ▲720百万円 27.5%減

直前期比

- 売上高 ▶ +20,494百万円 30.1%増
- セグメント利益 ▶ +711百万円 60.0%増

2021年3月期第2四半期：情報機器事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

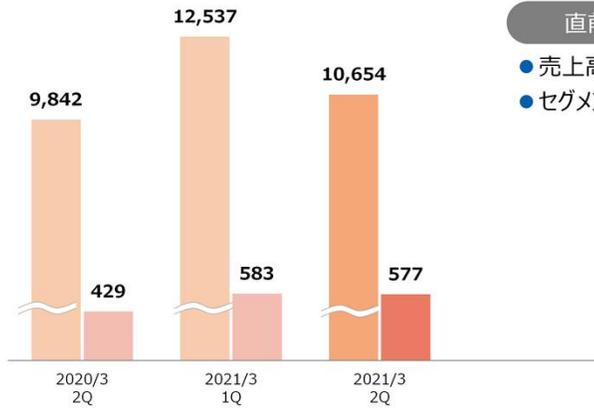
■ / ■ 売上高
■ / ■ セグメント利益

前年同期比

● 売上高 ▶ **+811**百万円 **8.2%増**
● セグメント利益 ▶ **+148**百万円 **34.6%増**

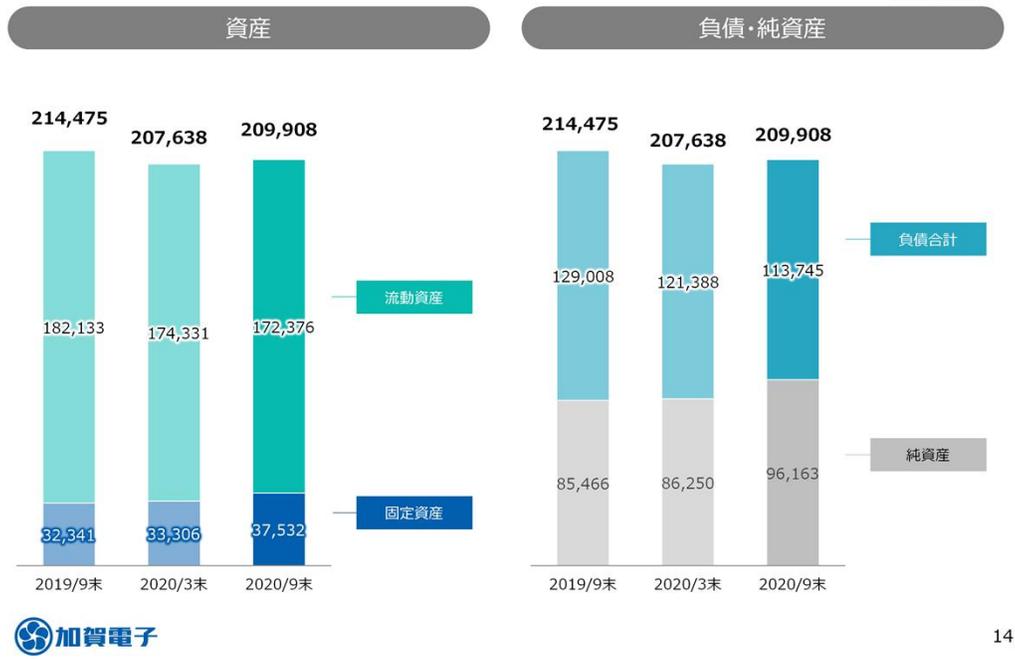
直前期比

● 売上高 ▶ **▲1,882**百万円 **15.0%減**
● セグメント利益 ▶ **▲5**百万円 **0.9%減**



資産/負債・純資産

(単位：百万円)

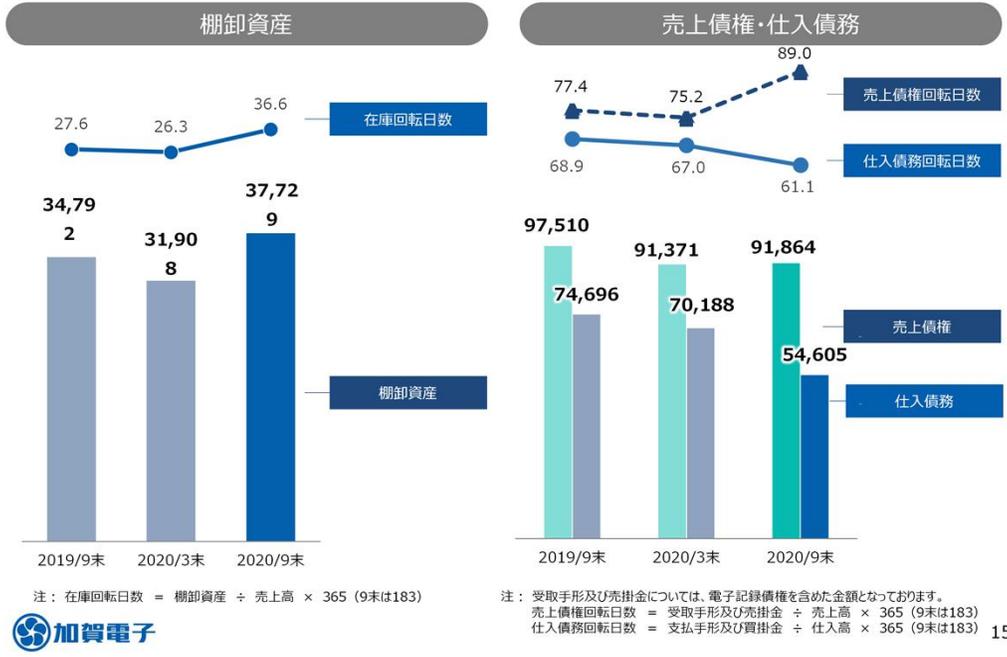


続きまして、バランスシートのご説明に入らせていただきます。まず資産の部でございますが、総資産は2,099億800万円となりまして、3月期に比べますと22億7,000万円の増加となっております。内訳は、流動資産が1,723億7,600万円でございますが、こちらは19億5,500万円の減少です。固定資産が375億3,200万円となっております、42億2,600万円の増加でございます。

続きまして、負債の部でございますが、1,137億4,500万円となりまして、3月期に比べますと、76億4,300万円の減少となっております。純資産は961億6,300万円となりまして、こちらは99億1,300万円増加しております。

棚卸資産/売上債権・仕入債務

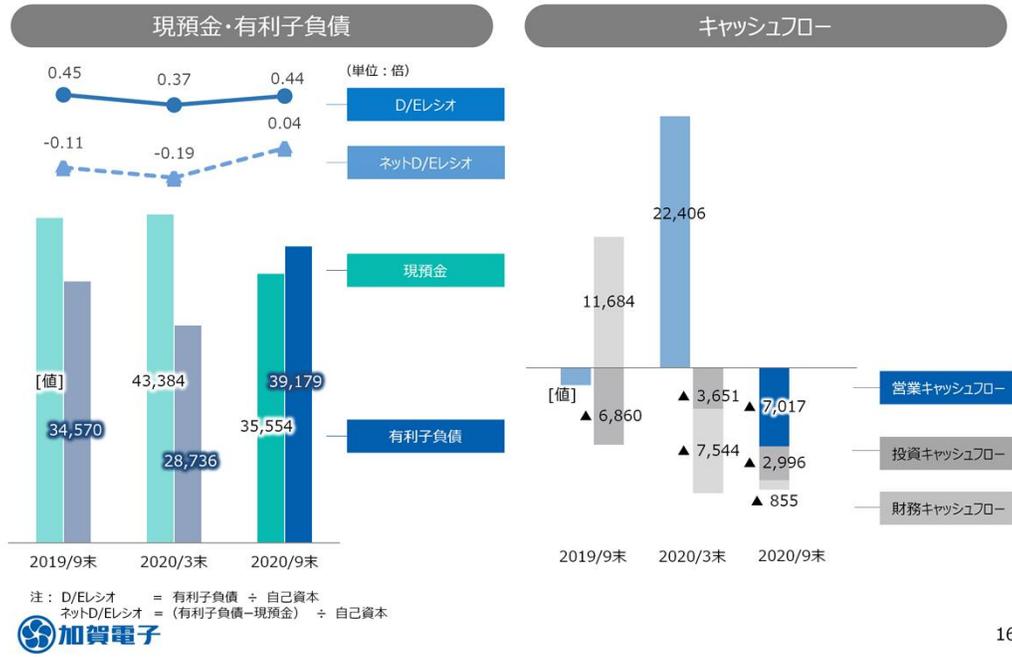
(単位：百万円、日)



資産の内訳でございます。まず、棚卸資産でございますが、377億2,900万円となりまして、58億2,100万円の増加となっております。在庫回転日数は36.6日となっております。売上債権でございますが、918億6,400万円となりまして、4億9,300万円の増加でございます。仕入債務につきましては、546億500万円となりまして、155億8,300万円の減少となっております。売上債権回転日数につきましては89日、仕入債務回転日数については61.1日となっております。

現預金・有利子負債/キャッシュフロー

(単位：百万円)



16

続きまして、現預金・有利子負債/キャッシュフローについてご説明申し上げます。現預金につきましては、355億5,400万円の残高となりまして、78億3,000万円の減少となっております。有利子負債につきましては、391億7,900万円となりまして、104億4,300万円の増加となっております。D/Eレシオは0.44となっております。また、ネットD/Eレシオは0.04となっております。キャッシュフローでございますが、営業キャッシュフローは70億1,700万円の使用でございました。投資キャッシュフローにつきましては、29億9,600万円の使用となっております。財務キャッシュフローにつきましては、8億5,500万円の使用となっております。

キャッシュフローに関する補足説明

エクセル子会社化、大口商権の商流変更ならびにコロナ影響などにより、営業キャッシュフローが一時的に支出増となるも、2021年3月期末には反転を見込む。

(単位：百万円)

主な変動項目		2019/9期	2020/9期
営業活動による キャッシュフロー	● 税引き前当期純利益	5,302	12,126
	● 負ののれん発生益	-	△7,963
	● 売上債権の増減額 (△は増加)	2,979	10,547
	● たな卸資産の増減額 (△は増加)	4,784	1,835
	● 仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,095	△21,540
	● 未収入金の増減額 (△は増加)	△497	1,607
営業活動によるキャッシュフロー		12,242	△7,017

当期営業CFの
主な特殊要因

- | | |
|------------|--------------------------------|
| ① 負ののれん発生益 | → エクセル株式取得による負ののれん発生益の調整 |
| ② 売上債権の減少 | → うちFEIの商流変更・コロナ影響等により、+9,138 |
| ③ たな卸資産の減少 | → エクセル中国子会社の在庫販売が進み、棚卸資産が減少 |
| ④ 仕入債務の減少 | → うちFEIの商流変更・コロナ影響等により、△13,851 |



キャッシュフローに関するご説明でございますが、エクセルの子会社化、大口商権の商流変更、ならびにコロナの影響などによって、営業キャッシュフローが一時的に支出増となっておりますけれども、2021年3月期末には反転を見込んでおります。

営業キャッシュフローの内訳でございますが、税引き前当期純利益で121億2,600万円獲得しておりますが、負ののれん発生益で79億6,300万円の支出。それから、売上債権の減少が105億4,700万円、棚卸資産の減少が18億3,500万円、仕入債務の減少が215億4,000万円等が主なものでございまして、70億1,700万円の支出となっております。

2021年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2020/3期 実績		2021/3期 前回予想 <small>(2020年8月6日発表)</small>		2021/3期 今回修正予想		前回予想 との差異	前年比
売上高	443,615		400,000		410,000		2.5%	▲7.6%
営業利益	10,014	2.3%	5,000	1.3%	7,500	1.8%	50.0%	▲25.1%
経常利益	10,137	2.3%	4,500	1.1%	7,500	1.8%	66.7%	▲26.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,852	1.3%	10,000	2.5%	10,000	2.4%	—	70.9%
EPS	213.21		364.18		364.18		—	70.8%
ROE	7.6		11.8		11.8		—	+4.2pt



18

最後となりますが、通期の業績予想についてご説明申し上げます。8月6日の時点で通期の業績予想を発表させていただいておりましたが、第2四半期の業績を受けまして、今回売上高を4,100億円と100億円増額させていただきました。営業利益につきましては、75億円と、25億円増額させていただいております。また、経常利益につきましても、75億円、こちらは30億円増額させていただいております。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、100億円と、こちらは据え置きのままとさせていただきます。

2021年3月期業績予想修正の考え方：前回予想からの変化

		前回予想		今回予想	
		(単位：百万円)			
売上高	● 加賀電子	240,000	▲5,000	235,000	
	● 富士通エレクトロニクス	160,000	▲35,000	125,000	
	● エクセル	50,000		50,000	
	● コロナ影響 (減収リスク)	▲50,000	(▲40,000)		
	合計	400,000	修正：+10,000	410,000	
営業利益	● 加賀電子	7,500		8,000	
	● 富士通エレクトロニクス	1,000		▲500	
	● エクセル	0		0	
	● コロナ影響 (減益リスク)	▲3,500	▲1,000		
	* 売上総利益減	▲5,000	▲4,000		
* 利益回復	+1,500	+3,000			
	合計	5,000	修正：+2,500	7,500	
当期純利益	● 特別利益：負のれん益	8,000		7,963	
	● 特別損失：構造改善、リスク等	▲1,500	▲3,000		
	● 法人税等	▲1,500	▲2,500		
		10,000		10,000	



19

この売上高、利益の増額の要因でございますが、簡単にご説明させていただきたいと思っております。前回、売上高4,000億円を発表させていただいたときの内訳でございますが、この時点では加賀電子を2,400億円、富士通エレクトロニクスを1,600億円、エクセルの売上高を500億円と見積もらせていただいております。これがコロナ前で4,500億円だったのでございますが、このときにコロナもございましたので、この減収リスクとして500億円を見積もりまして、差し引き4,000億円で売上高の予想を作らせていただいております。

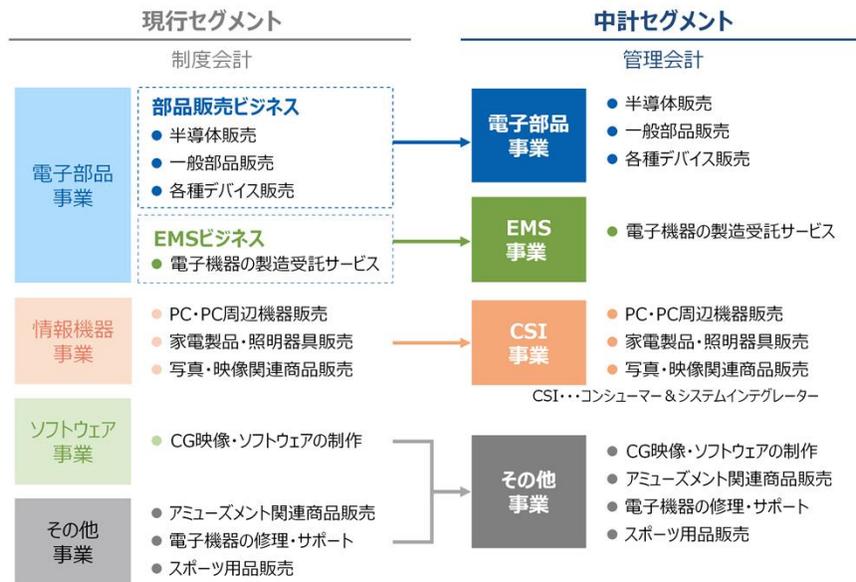
第2四半期の決算を受けまして、この内、加賀電子分が50億円売上高を減少させた2,350億円、富士通エレクトロニクスにつきましては、350億円売上高を減少させて、1,250億円、エクセルは変わらず500億円で、合計で全体で100億円増額の4,100億円の売上高とさせていただいております。営業利益につきましては、コロナ前に加賀電子が75億円、富士通エレクトロニクスを10億円、エクセルはブレイクイーブンで予定しておりました。コロナの影響による減益リスクとして売上の総利益の減少が50億円、利益の回復策として15億円で、差し引き35億円の減益を織り込んで50億円とさせていただいておりますが、今回の結果を受けまして、こちらを10億円のマイナス。内訳は、売上総利益の減少が40億円、利益の回復策等で30億円となっております。結果といたしまして、25億円増額した75億円の営業利益の修正となっております。

当期純利益につきましては、当初80億円の特別利益、こちらもエクセル買収による負のれん益の計上でございますが、こちらに加えて特別損失。これはグループ全体での構造改革ですとか、事業リスク等、こちらで15億円。それから、法人税等で15億円がございまして、合わせて100億円を当初予定しておりましたが、この内、特別損失等で30億円。それから、法人税等で25億円を見込みまして、合計で据え置きの100億円という予想になっております。

以上のとおり、非常に厳しい環境下で事業を進めておりますが、通期業績では前年に比べますと減収減益でございますが、グループ全体、力を合わせまして業績の向上に向けて頑張りたいと思っておりますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



	電子部品事業	EMS事業	CSI事業	その他事業
加賀電子株式会社				
電子事業部	●	●	(●)	●
EMS事業部		●		
通信事業部	●	●	●	(●)
特機事業部	●	●	(●)	●
営業推進事業部	●			
主な国内グループ会社				
加賀テック株式会社	●	(●)	(●)	(●)
加賀デバイス株式会社	●	●	●	●
加賀ソルネット株式会社			●	
イー・ディー・デバイス株式会社	●			
加賀マイクロソリューション株式会社		●	(●)	●
株式会社デジタル・メディア・ラボ				●
加賀スポーツ株式会社				●
加賀アミューズメント株式会社				●
加賀テクノサービス株式会社			●	
富士通エレクトロニクス株式会社	●			
加賀EMS十和田株式会社		●		
株式会社エクセル	●			
主な海外グループ会社				
加賀沢山電子（蘇州）有限公司		●		
加賀電子（上海）有限公司	(●)	●		
港加賀電子（深圳）有限公司		●		
KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED		●		
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED	●			
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD	●	(●)		
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED	(●)			
KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) SDN.BHD.		●		
KAGA ELECTRONICS INDONESIA, PT	●	●		
KAGA ELECTRONICS (VIETNAM) CO., LTD.		●		
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD	●	(●)		(●)
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.	●	●		
TAXAN MEXICO S.A. de C.V.		●		
KD TEC s.r.o.	●	●		

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	156,803		117,287		▲25.2%
	セグメント利益	2,127	1.4%	851	0.7%	▲60.0%
EMS	売上高	46,945		42,940		▲8.5%
	セグメント利益	2,100	4.5%	2,265	5.3%	7.9%
CSI	売上高	19,968		23,192		16.1%
	セグメント利益	618	3.1%	1,160	5.0%	87.8%
その他	売上高	6,912		5,438		▲21.3%
	セグメント利益	316	4.6%	88	1.6%	▲72.2%
合計	売上高	230,630		188,859		▲18.1%
	セグメント利益	5,239	2.3%	4,434	2.3%	▲15.4%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	84,698		67,547		▲20.2%
	セグメント利益	1,651	2.0%	807	1.2%	▲51.1%
EMS	売上高	22,425		23,120		3.1%
	セグメント利益	830	3.7%	1,181	5.1%	42.3%
CSI	売上高	9,842		10,654		8.2%
	セグメント利益	429	4.4%	577	5.4%	34.6%
その他	売上高	4,099		3,406		▲16.9%
	セグメント利益	430	10.5%	177	5.2%	▲58.9%
合計	売上高	121,066		104,729		▲13.5%
	セグメント利益	3,389	2.8%	2,778	2.7%	▲18.0%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

(単位：百万円)

		2020/3期 実績		2021/3期 予想		前年比
電子部品	売上高	292,905		264,000		▲9.9%
	セグメント利益	3,553	1.2%	2,000	0.8%	▲43.7%
EMS	売上高	93,340		85,000		▲8.9%
	セグメント利益	4,015	4.3%	3,000	3.5%	▲25.3%
CSI	売上高	43,466		50,000		15.0%
	セグメント利益	1,707	3.9%	2,300	4.6%	34.7%
その他	売上高	13,902		11,000		▲20.9%
	セグメント利益	623	4.5%	200	1.8%	▲67.9%
合計	売上高	443,615		410,000		▲7.6%
	セグメント利益	10,014	2.3%	7,500	1.8%	▲25.1%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

経営トピックス

加賀電子株式会社

代表取締役社長 門 良一

0

加賀電子 社長の門でございます。

平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、これより「経営トピックス」と題しまして、この4月から9月まで上半期に起こった経営上重要な事柄につきまして、ご報告させていただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染拡大への対応状況

営業拠点		4月	5月	6月	7月	8月	9月	感染者数
オフィス	加賀電子	29.4%	27.0%	42.4%	46.8%	37.3%	48.6%	1名
出社率	グループ会社	35.4%	30.3%	51.4%	55.8%	46.9%	54.1%	1名

● 国内外ともに、政府および地方自治体の指導に従い、「テレワーク/時差通勤」等の安全対策を実施しながら、営業活動を継続。

生産拠点		2月	3月	4月	5月	6月	7月-9月	感染者数
<海外拠点>								
タイ・インドネシア・トルコ		操作休止なし						0
中国・湖北		2/1~3/15						0
中国・蘇州		2/1~2/9						0
中国・深圳		2/1~2/13						0
マレーシア			3/18~4/20					0
ベトナム				4/1~4/15				0
インド				3/25~5/31				0
チェコ				4/7~4/9				1名
メキシコ				4/1~5/30				2名

● 国内では、政府および地方自治体の指導に従い、安全対策を実施しながら最小限の人数で操業を継続。海外では、ロックダウンに伴い、一部拠点にて操業休止

新型コロナウイルス感染拡大に伴う操業休止の状況

■ ……操業休止期間

■ 新型コロナウイルス感染拡大への対応

まず一つ目は、「新型コロナウイルス」について、であります。前回5月の説明会でもご報告しましたが、その後の4月から9月までの状況についてこのスライドにまとめております。

● 先ず営業拠点ですが、国内ではテレワークや時差通勤を基本に対応しています。海外は、各国政府や行政機関の指導に従って、一部は在宅勤務なども活用して、安全第一で営業活動を継続しています。

● 国内のオフィス出社率を表にまとめておりますが、緊急事態宣言が解除された5月までは30%以下に抑え、その後、6月以降は40~50%に抑えるようにいたしました。なお、再び感染拡大局面となった10月からは、東京、大阪等の大都市圏はオフィス出社率を40%に、それ以外は50%を目安として指示しております。

● 国内における感染者数は、4月から9月までの間で、加賀電子本社、グループ会社で、8月と9月にそれぞれ1名出ましたが、その後は、感染者は発生しておりません。

● 一方、生産拠点では、国内およびタイ、インドネシアでは一度も休止することなく、生産活動を継続しておりますが、ここに挙げた、中国、マレーシア、ベトナム、等では各国政府が発出したロックダウンに従って、一時操業を休止しました。今現在は、安全対策を施しながら、全拠点で生産活動を継続しています。

● 海外における感染者数は、4月にチェコで1名、7月にメキシコで2名出ました。その後、直近では欧米でのコロナ再拡大に伴い、チェコ、メキシコ、そしてトルコで数名程度の感染者が報告されています。

● 当社では、国内外ともに手洗い、うがい、アルコール消毒はもちろんのこと、入館時には検温器による社員及び来訪者の正常体温の確認を行っています。また、工場内では、消毒シャワー、ソーシャルディスタンスを確保した生産ライン、社員食堂では仕切りを設けて従業員同士の接触を防ぐなど、感染拡大防止に努めています。これまでのところ、感染者の発生は単発にとどまっており、集団感染には至っておりません。

旭東電気のグループ会社化について

旭東電気の概要	名称	・ 旭東電気株式会社
	代表者	・ 代表取締役会長 俊成 伴伯 (当社 取締役EMS事業部長) ・ 代表取締役社長 澤田 康博 (旧旭東電気 代表取締役社長)
	所在地	・ 大阪市旭区新森6丁目2-1
	事業内容	・ 安全ブレーカー、漏電遮断器、直流開閉器製造事業 ・ 電子機器の受託製造 (EMS) 事業、等
買収のスキーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年4月28日：旭東電気、大阪地方裁判所に民事再生手続きを申し立て ● 2020年8月31日：旭東電気と民事再生支援に関するスポンサー契約締結 ● 2020年11月2日：旭東電気を会社分割し、新たに設立された旭東電気の株式100%を取得、同日付で連結子会社化 	
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の車載向けEMS顧客に対する製品供給継続 ● 製造業の国内生産回帰に対応した西日本地区におけるEMS拠点構築 ● 同社が持つ“オンリーワン製品*”の競争力強化によるグループ収益貢献 <small>* 漏電保護プラグ、漏電保護リレー、小型漏電遮断器、直流開閉器等で国内シェア75～100%保有</small>	
業績への影響	● 2021年3月期業績への影響は軽微と見込む	

■ 旭東電気のグループ会社化について

次に、「旭東電気のグループ会社化」について、ご説明させていただきます。

● この会社は、大阪に本社を置き、ブレーカーや漏電遮断器の製造、一部EMSも行う電気メーカーです。漏電保護プラグ、漏電保護リレー等の分野では国内シェア75～100%保有するトップメーカーであります。

● 今回のグループ会社化の経緯ですが、本年4月、旭東電気が大阪地裁に民事再生手続きを申し立てたことに始まります。同社は国内外で事業を展開していたのですが、昨年あたりから中国事業が不振となり、そこへコロナの影響が重なったことで経営が立ち行かなくなったものです。

● 当社はもともと、車載向けのEMSで、一部のお客様の仕事を同社へ発注していた関係もあり、8月に民事再生支援のスポンサー契約を締結しました。その後、「旧旭東電気」の中国事業など当社にとって不要なものを切り離した上で、11月2日付で「新旭東電気」としての株式100%を取得、連結子会社としました。

● この買収の狙いは、ここに書かれた通りですが、特に二番目の、「西日本におけるEMS拠点構築」が重要です。同社は、鳥取県に工場を持っていることから、東日本は加賀EMS十和田を、そして西日本は旭東電気を持つことで、国内生産回帰を志向するお客様のニーズに広く対応できる体制が整うこととなります。

PMIの進捗状況：富士通エレクトロニクス

EMSの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載機器メーカー、電機メーカーなど5社から開発・試作・量産を受注 84社/新規訪問 → 40社/商談継続中 <p><注目>上半期の活動で既に昨年度並みの実績。初の海外量産案件も獲得。</p>	
クロスセルの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀電子が持つ有力商材を大手優良顧客へ売り込み強化 <p><注目>情報機器、インフラ機器、家電など様々な分野で大型商談を展開中</p>	
新規商材の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体、電子部品、ユニットモジュールなど幅広い分野で商材・サービスを拡大 <p><注目>新規取扱い商材79社（累計）、今期売上見込み147億円（前期104億円）</p>	
営業拠点の 統廃合	国内	<ul style="list-style-type: none"> ● FEI大阪オフィスを加賀電子関西営業所へ移転 [20年12月] *既に、名古屋、広島、新潟は統合完了
	海外	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀電子米国版社をFEI米国版社に統合 [21年春目途] ● 加賀電子及びFEIの韓国版社についても見直し中 [21年春目途]
※略称：富士通エレクトロニクス→FEI		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年12月29日付で、社名を加賀FEI株式会社に変更 	



3

■ PMIの状況：富士通エレクトロニクス

次に、富士通エレクトロニクス買収のPMIについてご説明いたします。

● まず「EMSの取り組み」ですが、前回もご説明しましたが、昨年4月から富士通エレクトロニクス内にEMS

専任の営業部隊を立ち上げ、加賀電子のEMS事業部と連携して、同社の有力顧客への営業活動を行っております。この4月から9月に、84社へアプローチし、5社から開発や試作、量産のご注文をいただきました。

● 昨年は1年間で90社へアプローチし、4社から注文を取りましたので、この半年で昨年1年分のパフォーマンスとなります。多くの案件の売上計上は2021年度からとなりますが、中でも、車載Tier1向けの制御基板のビジネスは数十億円規模の大型案件ですので、楽しみにしているところ です。

● 次に重要なポイントは、三つ目の「新規商材の取り組み」です。サイプレスなど大口の商権を失ったことは既にご説明の通りですが、空いた穴を埋めるには、新しいビジネスが必要です。実は、富士通エレクトロニクスは5年ほど前から、新規商材の開拓を熱心に行っておりまして、これまで累計で79社と新たな取引を始めております。今年度は、それら新規商材の売上は前期から40%増の約150億円と見込んでいます。とりわけ、年間数十億円を売り上げる有力商材が4件ありますので、これからの成長に期待しているところ です。

● 両社の持つ営業拠点や組織の統廃合も鋭意進めております。国内は、既に名古屋、広島、新潟については統合や移管を済ませましたが、年内に大阪の営業所を移転させます。海外では、米国版社の統合を来春に向けて進めているところ です。特に米国はコロナ感染拡大の影響もありますので、安全第一で進めているところ です。

● 最後に、この12月29日付で社名を「加賀FEI株式会社」に変更いたします。心機一転、新しい年は、新しい社名で迎えることとなります。

PMIの進捗状況：加賀EMS十和田（旧十和田パイオニア）

新規顧客の獲得 ①加賀電子との協業	車載	<ul style="list-style-type: none"> ・日系Tier1向け電装基板の量産開始 [20年7月～] ・日系Tier1向け電装基板の量産受注 [21年11月～]
	OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・日系大手事務機メーカー向け電装基板の量産受注 [21年以降]
	電機	<ul style="list-style-type: none"> ・日系大手電機メーカーから「認定工場」資格を取得
新規顧客の獲得 ②独自開拓	医療機器	<ul style="list-style-type: none"> ・日系医療機器メーカー向けセンサの製造受託 [20年12月～] ・日系医療機器メーカー向けユニットの製造受託 [22年5月～]
EMSマザー工場としての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ● 自社開発の生産IT化ツール（管理ソフト、設備）をグループ内生産拠点へ展開 ● 生産に関する標準化ノウハウの共有 ● 海外生産拠点への支援、海外赴任人材の展開 ● 品質管理、生産技術人材の育成加速 ● モノづくり視点でのIT化推進（品質管理、資材、工場総務、経理）

■ PMIの状況：加賀EMS十和田

次に、昨年10月にグループ会社化した加賀EMS十和田（旧十和田パイオニア）のPMIの状況についてご説明いたします。

● 同社は、これまではパイオニアの生産子会社としてカーナビなどの生産を手掛けてきたわけですが、当社のグループ入りしてからは、それに依存しない経営を進めるため、新規顧客の開拓に鋭意取り組んでおります。

● 一つのアプローチは、加賀電子のEMS事業部との協業によるものです。既に、車載向けに2件、OA機器向けに1件、量産受注いたしました。また、日系の某大手電機メーカーから「認定工場」の資格も取得しましたので、これから取引が広がっていくものと思います。

● もう一つは、同社自身によるものです。十和田パイオニア時代から医療機器の製造ライセンスを所帯しておりましたので、それを背景にして、日系の医療機器メーカーから2件受注しております。

● 同社買収の狙いの一つは、当社のEMSビジネスにおいて「ものづくり力」を強化することでしたが、エレクトロニクス専門メーカーとして長年培ってきた同社のノウハウ、優秀な生産系人財と生産設備、そして品質保証体系など有形無形の資産を共有し、グローバルに水平展開しております。「マザー工場」として、当社のEMSビジネスの品質レベルを一層向上し、競争力の強化を図るものです。

PMIの進捗状況：エクセル

新規事業の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● カルテック社製光触媒除菌脱臭機*の拡販 ● 中国アルファバス社製EVバスの拡販 <p><注目>加賀電子+エクセルが有するネットワークを活用し、本格展開中 ※ EVバスは、上期2台受注確定</p>				
クロスセルの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀電子が持つ商材を大手顧客等へ売り込み強化 <p><注目>エクセル社内に「グループシナジー推進室」を新設し連携強化 更に、「特販営業部」を新設し、電子部品以外の商材の取り扱い拡充中</p>				
営業拠点の 統廃合	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="488 640 592 775">国内</td> <td data-bbox="592 640 1313 775"> <ul style="list-style-type: none"> ・ EXLがADSを吸収合併 [20年10月] ・ EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年春目途] ・ EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年春目途] ・ 他の国内拠点についても見直し検討中 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="488 775 592 900">海外</td> <td data-bbox="592 775 1313 900"> <ul style="list-style-type: none"> ・ EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年冬目途] ・ ADS香港を清算、EXL香港へ事業移管 [20年冬目途] ・ 他の海外拠点についても見直し検討中 </td> </tr> </table>	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLがADSを吸収合併 [20年10月] ・ EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年春目途] ・ EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年春目途] ・ 他の国内拠点についても見直し検討中 	海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年冬目途] ・ ADS香港を清算、EXL香港へ事業移管 [20年冬目途] ・ 他の海外拠点についても見直し検討中
国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLがADSを吸収合併 [20年10月] ・ EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年春目途] ・ EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年春目途] ・ 他の国内拠点についても見直し検討中 				
海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年冬目途] ・ ADS香港を清算、EXL香港へ事業移管 [20年冬目途] ・ 他の海外拠点についても見直し検討中 				

※略称：エクセル→EXL Advanced Display Solutions（子会社）→ADS



■ PMIの状況：エクセル

PMIのご説明の最後は、エクセルです。同社は、「電子部品ビジネスのシェア拡大」、「EMSビジネスの規模拡大」、「新規事業の獲得」などを狙いとして本年4月に買収しましたが、ここでは、「新規事業」と「拠点の統廃合」に関して、この半年の進捗をご説明いたします。

● 新規事業の取り組みですが、2件書かれています。1件目のカルテックの件はこの後のスライドで詳しくご説明しますので、EV（電動）バスについて触れておきたいと思えます。同社は、中国のEVバスメーカー、アルファバス社の販売代理店として、19年に「アルファバス・ジャパン」を設立。日本において、環境配慮型のEVバス拡販に取り組んでおります。

● アルファバス本体は、1999年に設立され、車両製造はスウェーデンのバスメーカーと、バッテリーは日本の電池メーカーと提携して、12m級の大型EVバスを生産しています。EVバス先進国の中国では、トップランナーとして、上海、成都、無錫等で採用が進むほか、欧州でもスペインやイタリアで大都市を走る路線バスに採用されているそうです。日本でも、上期に地方自治体等から2件 受注しました。EVバスは、言うまでもなく、クリーンエネルギーで排出ガスゼロですので、SDGsにも沿った社会貢献型のビジネスだと思えます。

● 営業拠点の統廃合についてですが、このように、国内外において当社拠点との統合や移転、子会社の清算など、必要な構造改革を粛々と進めているところです。

カルテック社製光触媒除菌脱臭機について



カルテック社について

- 元シャープの技術者が2018年に立ち上げたベンチャー企業
- 独自開発の光触媒技術を搭載した除菌脱臭機を手がける
- エクセルが同社に出資している関係を発展させて、当社グループ全体で販売及び部品調達において協業することに基本合意

カルテック社の光触媒技術について

- 酸化チタンを独自技術でコーティングした光触媒フィルタに可視光LEDを照射することで、吸着したウイルスや細菌、有害物質等を水と二酸化炭素に分解する
- 理化学研究所/日本大学医学部が共同で機能評価した結果、新型コロナウイルスを20分で99.9%不活化することが実証された



■ カルテック社製光触媒除菌脱臭機について

次は、カルテック社が開発し、販売している光触媒除菌脱臭機「ターンド・ケイ」に関してご説明いたします。

● 最初に、カルテック社に関してご説明いたします。同社は、元シャープにいた技術者、染井潤一氏が中心になって2018年に立ち上げたベンチャー企業です。独自開発の光触媒技術を用いて「空気や水の浄化」に対応した環境製品を世の中に提供しています。

立ち上げ時に、エクセルがスタートアップ資金の一部を出資したご縁があったことから、その関係を当社グループ全体に展開して、製品販売及び部品調達で協業することに合意しました。将来的には当社のEMSネットワークを活用して生産面での協業も視野に入れております。

● 次に技術的なことについてご説明いたします。

光触媒は決して新しい技術ではないですが、同社の技術のポイントは、光触媒としての酸化チタンの独自のコーティング技術と光源に可視光LEDを用いたことです。この結果、世界トップクラスの反応効率が得られました。空気中に浮遊するウイルスや細菌等を水とCO2に酸化分解するのですが、インフルエンザウイルスの場合、5分で99.9%除去することがこれまでも確認されてきました。

● 今般、同社は理化学研究所、日大医学部と共同で、一定空間内で新型コロナウイルスに対する光触媒の有効性実験を行ったところ、約20分で99.9%以上除去することが確認されました。既に同社から公表されており、新聞やテレビなど各種メディアにも取り上げられています。家電量販店や通販で非常に売れています。壁掛けタイプと、わたしがしているのが首掛けタイプです。もし、ご興味があるようでしたら、当社のIRにお申し付けいただければ、と思います。



■ サステナビリティの取り組み

最後の2枚のスライドは、サステナビリティ、SDGsに関してご説明いたします。

● このスライドは、当社のサステナビリティに関する取り組みをビジュアル化したものです。当社はもともと、「商社」を生業として、お客さまには「Noを言わない」ことをモットーとして、50余年事業を続けてきました。その結果、エレクトロニクスの総合商社として部品販売ビジネス、EMSビジネスを中核に据えて、完成品販売から販売後のサポートまで、事業領域を拡大してきました。

● 従来事業では、学校・教育機関向けに高品質なPC製品を販売しています。また、PC製品や家電製品のリユース・リサイクルといった再生事業を通じて廃棄物の削減にも貢献しています。部品販売やEMSビジネスでは、お客様を選別したり取引を選別したりすることは出来ませんが、お客様がSDGsに沿って展開される製品やサービスへのお手伝いを通じて間接的にSDGsに携わることが当社の立ち位置だと理解しております。

● 一方、新規事業では、これまでの前例や慣習にとらわれず、SDGsに沿った新しいビジネスにチャレンジしています。地震や集中豪雨など頻発する大規模災害に対して防災ニーズが高まる官公庁向けにヘリコプタービジネスを始めました。また、「移動式CTスキャナ」といった医療機器の販売も準備しています。このように、エレクトロニクス商社の枠を超えて「社会課題解決」ビジネスに取り組んでいます。

● SDGsの取り組みを加速するには、外部との協業（パートナーシップ）は必須です。当社はベンチャー投資を通じて、社会課題解決に取り組むスタートアップ企業を支援しています。更に、北陸先端技術大学等との産学連携オープンイノベーションによって、次世代エネルギー素材などの事業化に取り組んでいます。

サステナビリティへの取り組み

医療機器 × QOL



障がい者支援 × ウェアラブル端末



高齢化社会 × 見守りシステム



ブレイクスルー × 次世代蓄電デバイス



8

■ サステナビリティの取り組み

最後のスライドは、SDGsのテーマに沿った具体例を4点ご紹介いたします。

● 左上の写真は、当社が販売を準備している「移動式CTスキャナ」です。歩行することが困難な高齢者の健康促進に繋がたいと考えています。このフラットベッド式のCTスキャナは女性の乳がん検診に使われます。従来のマンモグラフィと違い、「無痛」が特徴ですので、検診数が高まり、早期発見に繋がるものと思います。

● 右上は、富士通エレクトロニクスが開発した、音を身体で感じるインタフェース「オンテナ」です。60～90dBの音を256段階の振動と光の強さに変換し伝達することで、聴覚障がい者の方が音のリズムやパターン、大きさを感じることができます。聾学校などの教育現場、スポーツや文化イベントなどでの利用を期待しています。

● 左下は、当社が販売する「ケアサポートシステム」です。天井に設置したセンサーで入居者を24時間見守るシステムです。起床／離床といった行動を検知するほか、転倒や呼吸の異常などの事故発生時には、職員の持つスマートフォンに通知します。入居者の状況を映像で確認できるため、早期に適切な処置が可能になり、業務効率を大幅に改善できます。このシステムを導入した施設では、約3割の業務効率化を実現したという報告もあります。

● 最後は右下の、「グリーンキャパシタ」です。これは、当社がベンチャー投資したスペースリンクが開発したのですが、北陸先端大とも産学連携して製品化を進めているところです。急速・大容量充電が可能なエネルギーデバイスとして、モバイル端末やウェアラブル端末等の民生機器、ロボットやドローンなどの産業機器、そしてEV(電気自動車)まで幅広い分野での活用が期待されます。

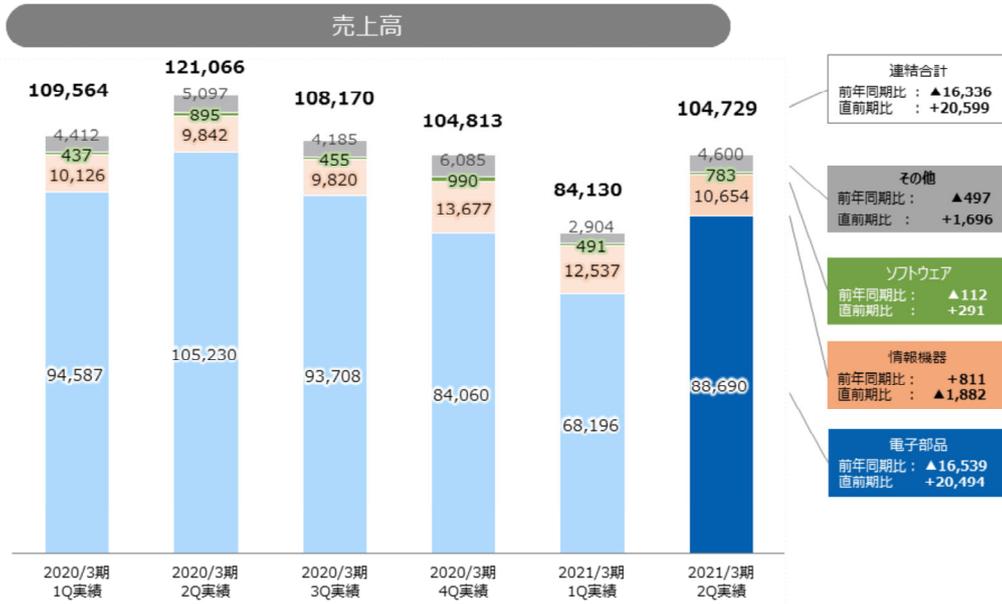
● このように、当社は、「従来事業＋新規事業＋外部協業」の三位一体でSDGsに貢献していきます。

わたくしからのご説明は以上であります。ご清聴、ありがとうございました。

參考資料

2021年3月期第2四半期：セグメント別売上高四半期推移

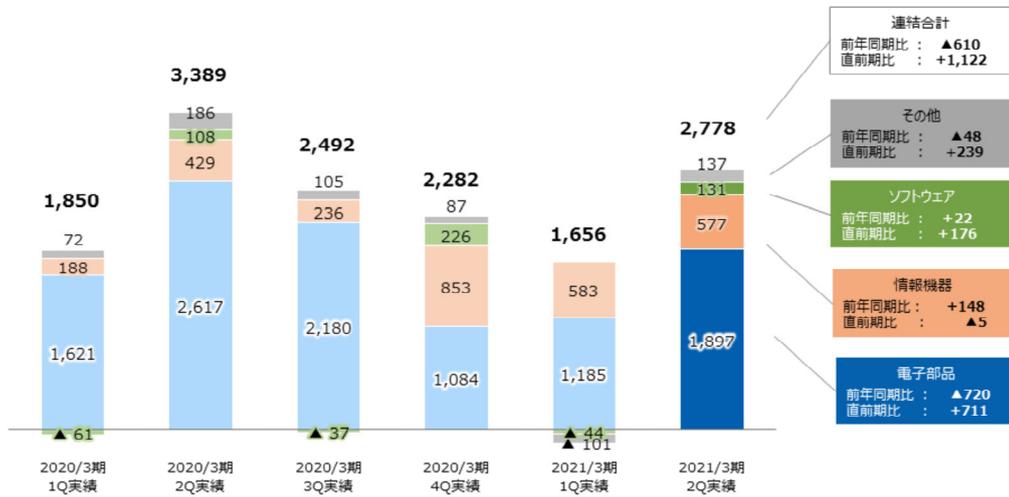
(単位：百万円)



2021年3月期第2四半期：セグメント別営業利益四半期推移

(単位：百万円)

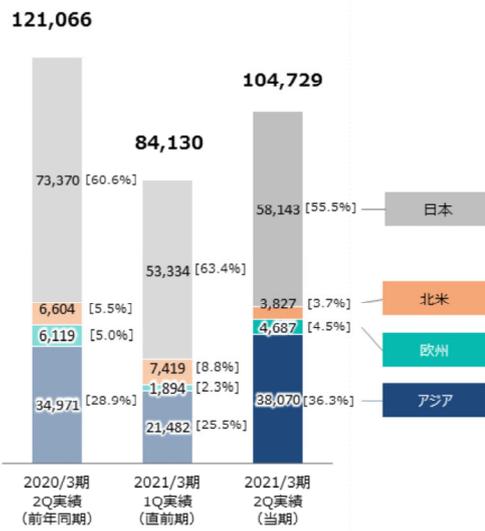
セグメント利益・営業利益



2021年3月期第2四半期：地域別売上高四半期推移

(単位：百万円)

売上高



前年比

● 日本	▶	▲15,227百万円	20.8%減
● 北米	▶	▲2,777百万円	42.1%減
● 欧州	▶	▲1,431百万円	23.4%減
● アジア	▶	+3,099百万円	8.9%増

直前期比

● 日本	▶	+4,809百万円	9.0%増
● 北米	▶	▲3,591百万円	48.4%減
● 欧州	▶	+2,793百万円	147.5%増
● アジア	▶	+16,587百万円	77.2%増

為替レート/為替感応度

	2020/3期 2Q実績 (円)	2021/3期 2Q実績 (円)	1%変動による影響額 (百万円)		2021/3期 前提 (円)
			売上高	経常利益	
米国ドル	108.63	106.92	649	19	105.50
タイバーツ	3.49	3.38	90	2	3.50
人民元	16.20	15.39	524	3	15.00
香港ドル	13.86	13.80	482	2	13.50

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入